

## 大学入試が本格的に始まりました。

文責 学校長



### ～引き続きコロナ・インフル感染防止策にご協力を～

私立大学の入試が本格的に始まりました。本校の生徒が数多く受験する「福岡大学」は2月2日から、「西南学院大学」は2月6日から入試が始まりました。この後関西・関東地区の私大入試へと続きます。全国の受験生との闘いになります。国公立大学と併願している人は二次対策の学習と並行しての受験となりますが、並行して学習を進めつつ自信を持って試験に臨んでください。コロナ感染の第8波は減少傾向にあります。インフルエンザも広がっています。学年末考査、大学入試に向けて更なる感染防止策にご協力をお願いします。

### 1 佐賀県放送コンテストで優秀賞(第2位)に輝きました。

1月29日(日)に行われた「第23回アバンセ杯放送コンクール」において放送部の山田彩香さん(2-5)が高校生アナウンス部門で**優秀賞(第2位)**に輝きました。

### 2 写真部の作品が建設新聞の新年第1号の表紙を飾りました。

建設業界の業界新聞である『建設新聞』(毎週火・木・土に「建設新聞社」から発行)の新年第1号の第1面の表紙を、「青春ビルドプロジェクト」で撮影した本校写真部の山下颯彌くん(1-3)の作品(県総文祭入選作品「明日へ」)が飾りました。その写真を県内の「富士建設株式会社」の代表取締役社長である溝口隆治様に記念のパネルにして頂き、本人と本校に寄贈していただきました。現在、校長室に飾っています。



### 3 職業セミナー講演会を開催しました。NHKの番組も視聴を。

1月31日(火)の7限目に1年生の理系志望者と2年の理系クラスの生徒を対象に「キャリア教育支援事業 職業セミナー」(県産業人材課主催)を実施しました。講師に「SUMCO」の人事労政部能力開発課の大浦康浩氏を迎え、「佐賀県企業の魅力発見～進路選択と企業紹介～」と題して、半導体関連産業及び半導体シリコンウェーハ事業について丁寧に説明して頂きました。NHKスペシャル『半導体 大競争時代』でも採りあげられた半導体の開発競争。スマホや家電のほか、AIや自動運転など次世代産業に不可欠で今後100兆円市場とされる半導体。政府も力を入れている半導体開発に欠かせないシリコンウェーハで大きなシェアを占める「SUMCO」を将来の就職先として考えてみてはいかがでしょうか。大卒は毎年、文系学部出身10名、理系学部出身40名ほどを採用されているそうです。NHKの番組も是非視聴を。



### 4 今週の名言・・・マーク・トウェインの言葉です。

**夢をバカにする人間から離れなさい。器の小さい人間ほどケチをつけたがる。真に器量の大きな人間は、"できる"と思わせてくれるもの。**

【解説】『トム・ソーヤの冒険』で有名なマーク・トウェインの言葉です。この本に触発されて冒険に憧れた少年期を過ごした人は多いはず。しかし、成長し大人になるにつれて人は現実にとらわれて夢を見ることを忘れてしまうようになってしまいます。人生を豊かにするのは夢を抱き続けることです。そんなあなたの夢を周りの人が「そんなの無理だ。」「夢では食べていけない」などと批判することもあるでしょう。そんな時はこの言葉を思い出し「夢をバカにする人は器の小さい人間だ。」と思えばよい。松下幸之助氏も「自分がこういうことをやりたいという思いが大事。その思いは98パーセント成就する。必ずこれはやってみせる。やれるにちがいないという信念があったら、ほとんどかなうということや。」と松下政経塾の塾生に語っていたといひます。マーク・トウェインのいう「できると思わせてくれる真に器量の大きな人間」の代表が松下幸之助かもしれません。

【マーク・トウェインについて】アメリカ合衆国の作家、小説家。ミズーリ州出身。『トム・ソーヤの冒険』の著者として知られ、数多くの小説やエッセーを発表、世界中で講演活動を行うなど、当時最も人気のある著名人であった。ウィリアム・フォークナーは、トウェインが「最初の真のアメリカ人作家であり、我々の全ては彼の相続人である」と記した。アーネスト・ヘミングウェイは『アフリカの緑の丘』において、「あらゆる現代アメリカ文学は、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィン』と呼ばれる一冊に由来する」と述べた。(参考:「Wikipedia」より)

### 5 今週の話成語・・・「千里の行も足下より始まる」【問題】英語で表現すると?

遠い旅路も足もとの第一歩を踏み出すことから始まる。どんな遠大な事業も手近なところから始まるというたとえ。(出典:「老子」より)

【由来】どんな遠大な計画も身近なことから始まるというたとえ。千里の道のりも足元の第一歩を踏み出すことから始まるという意から。「千里の道も一歩から」ともいう。武高生諸君、入学式で紹介した「第一歩」という詩を覚えていますか。「十里の旅の第一歩。百里の旅の第一歩。同じ一歩でも覚悟がちがう。三笠山に登る第一歩。富士山に登る第一歩。同じ一歩でも覚悟がちがう。どこまで行くつもりか。どこまで登るつもりか。目標がその日その日を支配する。」この言葉にも第一歩の重要性が込められています。

### 6 入試によく出る漢字(その68)・・・広島大学(2017・16年度入試)に挑戦!

- (1) 長い歳月をかけてツチカわれてきた。
- (2) 蔑ろにされてきたケイイがある。
- (3) 私たちはいずれか一つの層のみにセンシンしがちである。
- (4) レイサイ農家とのネットワーク構築。
- (5) 創作エイサーの団体が100以上存在するほどのカッキョウを呈している。
- (1) アットウのな支配力が世界を席卷していった。(2) 学校教育制度や医療・福祉制度、カヘイ制度の導入など
- (3) 政府機関や民間団体が、同様のショウレイとプロモーションを展開するなか
- (4) 「先史時代」には、宗教的・儀礼的道具やシュリョウ具の装飾として
- (5) 詩情溢れるエッセイや小説をクシし、「間接観光」という手法で魅力を紹介する。



7 今週の一冊・・・ジュリアン・バジーニ(向井和美訳)の『100の思考実験』(紀伊国屋書店)です。

これは「読む」本ではありません。「考える」本です。「列車の暴走で40人が死にそうとき、5人だけ死ぬほうにレバーを切り替えられたらどうするか」NHK「ハーバード白熱教室」で取り上げられた「トロッコ問題」のように、古代ギリシャの時代から哲学者たちは「思考実験」を“考えるためのシミュレーション・ツール”として用いてきました。身体と脳・自意識・生命倫理・言語・宗教・芸術・環境・格差など、多岐にわたるテーマから選りすぐった簡単に“答え”の出ない、哲学・倫理学・論理学の100の難問があなたをぐらぐらと揺さぶります。(参考：本書裏表紙説明より)



【解説】千葉に住む次男に薦められて読んだ一冊です。図書館にも入っています。全部で100の哲学的思考実験とその解説というスタイルで構成されており、それぞれの章が独立していて、長さもほぼ4ページと短く、どこから読んでも完結する(思考は完結しないが)スタイルなので読みやすく、中には哲学の世界では有名な「抜き打ちテストのパラドクス」や「トロッコ問題」「砂山のパラドクス」など、読者がどこかで一度は目にしたこともある思考実験も含まれており、始めから終わりまで心地よい思考時間を過ごすことのできる一冊です。世界19ヶ国で翻訳刊行され、イギリス発のロングセラーとなっています。「読んでいて思わず引きこまれる。知的で愉快で、型破り。巧みでセンスのよい構成。誰かと議論したいのに、相手が見あたらないとき、繰り返し手にとりたくなる本だ」、「楽しんでできる頭の体操」、「身動きできない地下鉄の中でも、“思考実験”のどれかに取り組めば、たちまち通勤地獄から抜け出せる」と各国でも評判の一冊です。武高生諸君も時には正解のない哲学的な思考にしばし挑んでみては如何ですか。

【作者・ジュリアン バジーニについて】イギリスの哲学誌“The Philosophers’ Magazine”編集長。各紙誌への寄稿、テレビ出演などをとおして、哲学をわかりやすく一般に解説する哲学者としての顔ももつ。邦訳された共著に『哲学の道具箱』『倫理学の道具箱』『哲学者は何を考えているのか』がある。(参考：本書表紙裏の著者紹介文より)

8 世界遺産を巡る・・・第93回はカイロ歴史地区(エジプト) (登録：1979年)

【解説】エジプトの首都カイロは、1979年に「イスラーム都市カイロ」として世界遺産に登録された後、2007年に名称が変更されました。「カイロ歴史地区」は、カイロ東南部にある約8km×4kmの範囲にわたります。ここには、イスラーム地区である旧市街と、カイロ発祥の地であるオールド・カイロが含まれています。600を超えるモスクや、1000以上のミナレットを擁するため、「千の塔の都」と呼ばれています。7世紀にイスラーム帝国がこの地に侵攻し、エジプト支配の拠点としてフスタートという都市を建設しました。これがオールド・カイロの場所に当たります。以後、フスタートは首府や州治所としての役割を果たすようになります。10世紀にファーティマ朝はフスタートを征服し、ミスル・アル＝カーヒラ(勝利の町)を建設しました。カーヒラ＝カイロで、ここからカイロという名前が歴史上に出てくるようになります。宮殿やアズハル・モスクなどが造られました。12世紀、アイユーブ朝のサラフ・アッディーンにより、エジプトの政府機能がすべてカイロに集約されます。多くの歴史的建造物を抱えたカイロは、世界最大規模のイスラーム都市として繁栄したのでした。モカッタムの丘にある城塞で、1176年、アイユーブ朝創始者のサラフ・アッディーンによって建てられたシタデルには、ムハンマド・アリー・モスクやスレイマン・パシャ・モスク、軍事博物館などがあります。またシタデルは、カイロ市内を見渡せる絶景ポイントでもあります。シタデル内に増設されたモスクで、オスマン帝国のエジプト総督ムハンマド・アリーが建設に着手しました。彼は完成を見ずに亡くなりますが、その後ここに葬られています。完成したのは1875年のことでした。(参考：「世界遺産人気ランキング」より)



9 街角グルメを訪ねて・・・第93回は武雄市の「甚八」です。

お昼のランチメニューも豊富で美味しいと評判の『甚八』を紹介합니다。この日は「天ぷら定食」(1300円)、「海鮮丼」(1300円)、「肉料理定食」(1300円)、「本日の魚定食」(1300円)だがこの日は魚が大きいため1500円の設定)を注文。定食にはメインの他に刺身と小鉢がついてきます。この日の刺身はハマチとサーモンでした。「肉料理定食」のメインは唐揚げと生姜焼き、「本日の魚定食」のメインは「ブリかまの塩焼き」か「ブリ大根」からの選択で、この日は「ブリかまの塩焼き」を選択。頭つきのカマで目玉の周りのコラーゲンを含めて食べ応えがありました。場所は、市役所に向かう道路にある、第40号で紹介した「またえもん」の先の交差点の斜め向かい側にあります。「またえもん」同様、合格祝いや卒業祝いに寄ってみては如何でしょうか。



10 保護者の皆様へ・・・コーヒー＆お菓子の差し入れを！合格後の手続きも忘れずに。

私立大学の受験も始まり、合格発表も届く頃になりました。入学手続きの書類が届いたら、入学金等の振り込みを含めて手続きが必要となりますが、**手続き締切日を過ぎると合格は無効となります**ので、くれぐれもご注意ください。

【英語】◇ a journey of a thousand miles begins with a single step ◇ Little by little one goes far. (少しずつ歩いて、人は遠くまで行く) ◇ Step after step the ladder is ascended. (一段ずつ人ははしごを登る) ◇ He who would climb the ladder must begin at the bottom. (はしごを登ろうとするなら一段目から始めよ)

【正解】(1) 培われ (2) 経緯 (3) 専心 (4) 零細 (5) 活況  
(1) 圧倒 (2) 貨幣 (3) 奨励 (4) 狩猟 (5) 駆使